

常磐東小学校 校長だより

常なる磐

つねなる いわ

令和2年11月20日(金)
その2

◇ photo より… 環境の変化 に見る 天の恵み

タイトルのごとく、まずは2枚の写真を見比べていただきたい。



10/28(水)撮影

撮影時間は異なるが、大きな違いは樹木が纏(まと)う「葉」である。



11/18(水)撮影

紅や茜、黄金色と、あんなに鮮やかだった葉を、3週間ばかりですっきり落とした。正確に言えば、15日(日)まではちゃんとあった。

いや、この日まで【がんばった】のではないかと思える。学校の記念日を祝うために、校庭の樹木も応援していたのである。

式典の校長謝辞の際、壇上に立って校庭を望んだ時は、燃え上がるような紅葉が目飛び込んだ。毎日眺め、心を癒したいつもの紅葉を見て、心が落ち着いたのをはっきりと覚えている。

一気に落葉したのは、月曜日。南側の2本の大木アメリカカフウ(楓)も同じ。急に冷え込んだわけでもなく、どちらかと言えば陽気がよかっただけに不思議だ。まさに「天の恵み」。そう捉えた。

手前味噌になるが、**15**日の記念式典は【心温まる行事】となった。参列いただけなかった学区民の皆様にも、本書を通じ、改めて謝辞を述べたい。

本校が産声を上げて**120**年。**120**年という数字は特別です。**60**年の還暦をふた回り。形で表現するなら、「赤丸の二重丸」です。

このめでたき式典を催すにあたり、岡崎市長 中根康弘 様、教育長 安藤直哉 様をはじめ、地元選出議員の皆様、歴代の校長先生ほか、多くのご来賓の皆様にご足をお運びいただきました。高いところではありますが、御礼申し上げます。

また、本式典を計画し、4年の長きにわたり準備を進めてくださった、発起人の中根委員長をはじめとする実行委員の皆様、誠にありがとうございました。

さて、複雑な社会情勢のもと、本式典は屋外で開催する形となりました。しかし、本校の歴史を紐解けば、まさにこの場所こそ本式典にふさわしいと考えます。向かって右手にある校歌碑は、「創立**60**周年記念碑」、左手の校訓碑は、「創立**70**周年記念碑」で、いずれも旧校地から移設したものであります。また、手前には移転新築記念碑の「希望の塔」が子供たちの成長を見守っています。さらに、この場所からは、校庭北側の「移転新築**10**周年記念モニュメント」を望むことができます。

まさにこの場所は、本校の歴史そのものであります。

本式典を迎えるにあたり、先人が築かれた功績を讃え、職員で記念碑の文字を着色して、歴史の灯を再点灯させました。今、陽光に照らされて白色に光る文字に、本校の輝かしい歴史を感じずにはいられません。さらに、移転新築当初の姿に近づけようと、校内各所のお色直しを行いました。

驚くべきは、子供たちが行動を起こしたことです。上級生から、校内の木製看板や池の後方にある「ギョギョランド」の看板を塗り直したいとの声上がり、再着色により、再び命を吹き込んでくれました。

新たなものをこしらえるのではなく、残されたものを生かして再生する。これこそ「歴史のつながり」であり、「先人の思いに応える」ということです。本式典のテーマは「新世紀」。新たな始まりですが、過去を敬い、繋げてこそ、真のスタートと言えます。

皆様のおかげをもちまして、次なる六十年に向けての準備は整いました。「常磐東っ子**120**年宣言」のように、今後は、子供たちが常磐東の「ひかり」となって地域を愛し、力を尽くしていきます。そして、赤丸三重丸の**60**年後には、地域を支える立場として、学校を応援してくれることでしょう。

全校児童による鼓笛演奏で式を締めくくります。学校再開以降、敬老会と学芸会の開催方法の変更により、発表する場がないまま練習のみを重ねてきました。最初で最後の、そして待ちに待った本番演奏になります。宣言の思いを重ね合わせた子供たちの演奏を、是非ご覧いただきたいと思っております。

最後に、校歌の一節にある「正しく鍛える身と心」を信条とし、本校のさらなる発展に向けて精進することをお誓い申し上げ、謝辞といたします。

令和2年11月15日 岡崎市立常磐東小学校長 近藤善紀